

「高知の自然！大発見すごろく」の開発による森林環境教育の普及啓発について

四国森林管理局 嶺北森林管理署 森林整備官 ○岡本 昂大
治山グループ 池森 加奈恵
四万十森林管理署 業務グループ 田村 翔太
(元 嶺北森林管理署)

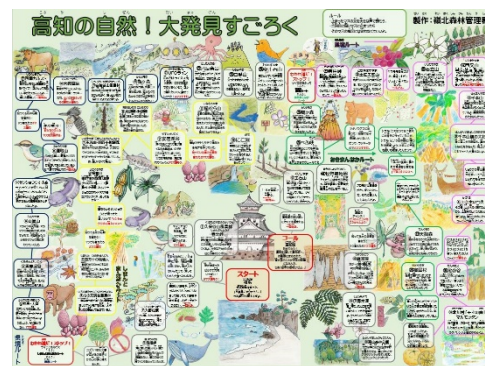
1 課題を取り上げた背景

林野庁では、森林内での様々な体験活動等を通じて、森林と人々の生活や環境との関係についての理解と関心を深める「森林環境教育」を推進しています。そこで、嶺北署のある高知県について考えてみました。高知県は森林・山の自然資源に恵まれています。面積が四国で1番大きく、また東西に長い形であるため、県内の小学生は自分の住んでいる地域以外を知る機会が少ない。うに、森林に関する学習がほとんど行われていない学校があるという現状があり、教職員の中からは「高知県をはじめとする森林・山の自然について学習する機会を」という要望の声もあります。他県でも同様のニーズがあるのではないかと推測しますが、まずは高知県版の森林環境教育ツールを開発することとしました。

そこで、本研究では、児童が高知県の森林・山の自然資源の場所や特徴、自然に関する知識とそれぞれの地域にある言い伝えを楽しみながら知ること、興味を持つこと、実際に行ってみたいと思うことを目的として、「高知の自然！大発見すごろく」を発案・作成し、森林教室を実施しました。

2 取組の経過

すごろくは、高知県を模した形で、各地域の特徴的な森林・山の自然を中心にマスを作成しました(図1)。マスには親近感をもたせるため手書きイラストを用いました。遊ぶ際に使用するコマは桜の枝を用いて製作しました。また、よりイメージが湧きやすく、さらなる興味を持ってもらうために、



(図1, 高知の自然！大発見すごろく)

すごろくのマスについて詳しく記載した写真付きの解説ガイドを作成しました。

そして、すごろくを用いた森林教室を、本山町立吉野小学校をはじめとする小学校4校で実施しました。内容としては、森林管理署の仕事を紹介したのち、班に1人職員がついてすごろくを体験してもらい(写真1)、すごろく、ガイドに関する意見や改良点についてのアンケートを児童と教職員に対してそれぞれ実施しました。

3 実行結果

森林教室実施後のアンケートでは、児童からは、「すごろくを楽しめた」「内容を理解できた」「すごろくのマスの場所に行ってみよう」という回答があり、教職員からは、児童のすごろくへの反応として、「楽しんで取り組めた」「森林・山の自然についての知識や言い伝えを学ぶことができた」「高知県の森林の場所や特徴を学ぶことができた」という回答があったほか、改善点について、低学年には文字が多く、難易度が高いといった意見が挙げられました。



(写真1, 森林教室でのすごろく実施の様子)

4 考察

アンケートで得られた意見に対応して、現行のすごろくの改良に加えて、低学年用に文字を減らした簡易版を作成しました。実際に遊んだ小学生や教職員の意見を取り入れることで、各学年の読解力や理解度により合った教材を作成することができました。改善を行ったすごろくは、各小学校へ再配布し、加えて、四国森林管理局ホームページへ掲載しました。また、高知新聞をはじめとするマスメディアに取り上げていただき、広報活動も行いました。この結果、嶺北署管内に加えて、他署や市町村が主催する森林教室で活用されるなど普及活動ができたと考えています。

本研究の取組によって、どこに住んでいても高知県の森林・山の自然資源の場所や特徴、自然に関する知識を学ぶことができる機会を提供することができました。今後も高知県全体の小学校へのすごろくの周知や配布に努め、森林環境教育のさらなる発展を目指していきます。